

令和元年度第2回香取市総合教育会議 会議録

1 期 日 令和2年2月21日（金） 開会 午後3時00分
閉会 午後4時00分

2 場 所 市役所4階 庁議室

3 出席委員 市長 宇井成一
教育長 金子基一
教育長職務代理者 平山茂治
教育委員 平塚智子
教育委員 熱田昇
教育委員 芦田優子

4 出席職員 教育部長 岩立一郎
教育総務課長 高岡洋一
学校教育課長 岡野健一郎
生涯学習課長 増田正記
生涯学習課副参事 宇井正志
香取学校給食センター所長 小倉律子

5 開会 教育総務課長 定刻となりましたので、只今から、令和元年度第2回香取市総合教育会議を開会いたします。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます教育総務課の高岡と申します。

どうぞよろしく願いいたします。

なお、本会議は、香取市総合教育会議運営要綱第4条第1項の規定により、原則公開するものとなっております。非公開とすべき案件がないことから傍聴希望がありましたら入室を許可いたします。

なお、本会議の会議録を作成する為録音させていただきます。

作成した会議録はホームページに掲載して公表いたしますので、ご了承ください。

それでは、次第に沿いまして会議を進めさせていただきます。最初に、この会議を主催する宇井市長よりご挨拶をいただきます。

6 市長挨拶

皆様こんにちは、皆様におかれましては、定例教育委員会議終了後の大変お疲れのところ、第2回総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、教育委員の皆様方には、日頃から香取市の教育行政の推進に大変なご尽力を賜っておりますことを、この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

さて、本日は前回の会議において、策定方針等について、ご協議いただいた「香取市教育大綱」について、そして、今年度の「全国学力・学習状況調査結果」について、皆様とご協議、意見交換を行って参りたいと考えております。

皆様には、それぞれの立場から、忌憚のないご意見をいただき有意義な会議にして参りたいと考えておりますので、引き続き、よろしくお願ひいたします。

教育総務課長

有難うございました。それでは早速議事に入らせていただきます。議事の進行につきましては、香取市総合教育会議運営要綱第3条の規定によりまして、宇井市長にお願い致します。よろしくお願ひします。

7 議題

議長(市長)

それでは、要綱の定めによりまして、議長を務めさせていただきたいと思ひます。

それでは、早速議題に入りたいと思ひます。議題の(1)香取市教育大綱について、事務局の説明をお願い致します。

教育総務課長

それでは、香取市教育大綱についてご説明いたします。

教育大綱の策定にあたりましては、国の教育振興基本計画などを参酌し、総合教育会議において協議を頂き、市長が定めることとなっております。

8月に開催いたしました、本会議におきまして、香取市教育大綱の策定の基本方針についてご協議頂き、基本的に、「来年度から計画期間がスタートする新たな香取市教育ビジョンをもって教育大綱と位置付ける。」と決定していただき、施策大綱等の骨子案についてご協議いただきました。

その後は、教育ビジョンの策定について、教育委員会で協議を重ねていただき、本日開催された教育委員会議において「第2次香取市教育ビジョン」が決定されました。

教育大綱につきましては、教育等の振興に関する総合的な施策の大綱として、策定の基本方針に基づき、教育ビジョンの基本目標と施策大綱を掲げております。

1 策定の趣旨及び考え方

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3第1項の規定に基づき、香取市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものです。

香取市が将来に向けて目指すべき「まちの姿」は、香取市総合計画に掲げられ、その教育・文化分野の目標を達成するため、本市教育が目指すべき方向や具体的な施策の方針等について、香取市教育ビジョンで明示しています。本大綱の策定にあたっては、これらの内容を尊重し、整合性を図ることとします。

2 大綱の期間

令和2年度を初年度とし、令和11年度を目標年度とします。10年間といたします。

3 大綱の基本目標

「歴史文化・自然に包まれて、たくましく心豊かな未来を創る人づくり」といたします。

4 施策大綱 ①明日を拓く、人間力を育てる学校教育の推進

②教育施策推進のための環境整備

③次代を担う青少年の健全育成

④ひらかれた生涯学習活動の振興

⑤スポーツ活動の推進

⑥郷土を愛する心を育む文化の継承

教育ビジョンの基本目標と、施策大綱を掲載しております。

説明は以上です。

議 長

ただいま説明のありました香取市教育大綱について、皆様方から何かご意見等ございましたら頂戴いたしたいと思っております。ご意見のある方は挙手でお願いしたいと思っておりますが、いかがでございましょう。

教育長

国が出している学習指導要領については、過去には10年に1度変える形でしたが、社会の変化が激しいということで、その時その時で修正を行う等、10年を待たずに学習指導要領が改訂することもありました。本市の大綱についても令和2年度を初年度とし令和11年度まで10年間となっておりますが、社会状況が大きく変化があったときの対応を、事務局ではどのように考えていますか。

教育総務課長

本大綱は教育ビジョンと合わせまして、10年間とさせていただきます。ご指摘の社会情勢や教育施策等の変化があり、この施策大綱がそぐわないことになりましたら、その時点で教育大綱の変更また、策定替えということで10年を待たずして、状況に合わせた教育大綱にしていく考えでおります。

議 長 その判定は誰がするのですか。

教育総務課長 教育委員の皆様からいただく場合もございますし、事務局側からまた、市長からご指摘があれば協議していくものと考えております。

議 長 策定の趣旨及び考え方に書かれていますが、香取市総合計画の教育分野が掲げられていてそれを履行するためのものということであれば、香取市の総合計画は前期と後期で5年に1度、もしくは毎年チェックを行うので、大綱についても、5年目には必ずチェックをする形にしておいて、何もしないでする現状とかけ離れた計画を進めることのないようにお願いしたい。

教育総務課長 整合性を図るとさせていただいてます、香取市教育ビジョンは全体的には10年ですが、前期教育振興基本計画、細かい事業を定めている部分につきましては、5年が前期、また後半の5年が後期計画として策定いたします。そのタイミングで見直す考え方で、こちらの教育大綱も行っていきたいと思います。

大綱の期間は5年がよろしいでしょうか。

議 長 案のとおり、10年で構いません。

教 育 長 総合計画はどのようになっていますか。

教育総務課長 平成30年度から令和4年度の5年が前期計画となり、令和5年度から令和9年度の5年が後期計画となります。

議 長 策定の趣旨及び考え方について、4行目の「本市」を「香取市」に修正して下さい。

教育総務課長 修正させていただきます。

議 長 その他如何でしょうか。

教育委員 教育ビジョンの59頁、「4 進捗状況の点検・評価及び計画の見直し」についてですが、素晴らしい内容のものもPDCAをしっかりと行わないと意味がありませんと教育委員会議でお話しましたが、チェックの方法については、総合計画も同じようなチェックを行うのですか。

教育総務課長

点検・評価及び計画の見直しにつきましては、毎年行政評価により行い、前回（教育委員会議）お示しして確認いただきました。あちらの点検によりまして、毎年点検を行っております。毎年繰り返して前期の計画は5年間で見直す、おおきな括りで考えております。

議 長

総合計画は10年ですが、前期と後期の二つに分けて、前期でやるべきこと、後期でやるべきこと、全体でやるべきことと分かります。その前期の中でも1年ごとの計画ですから、1年目でずれたり、要らなかつたり、必要なかつたり、次にも反映していくもの、それが前期にすべて反映します。細分化する形をとっています。教育ビジョンについてもいくつかの細目があってそれを1年ごと必ずチェックすることとなります。私が思っていることは、それをやりながら、大綱自体が出てくるのが絶対あると思いますので、大綱についても必ずチェックを行っていただきたいと思います。

議 長

他にご意見・ご質問等ございませんでしょうか。

それでは、先ほどの修正箇所については反映していただき、香取市教育大綱につきましては、提案のとおり策定してまいります。

続きまして、議題（2）「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果」につきまして、事務局からの説明を求めます。

学校教育課長

「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について」ご説明いたします。

はじめに、本調査の内容についてご説明いたします。

（1）目的についてですが、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」でございます。

（2）調査実施日は平成31年4月18日、（3）調査対象は、小学校6年生と中学校3年生でございます。

（4）調査事項は①児童生徒に関する調査として、国語、算数・数学、そして中学校は英語も加わります。なお、平成30年度までは、国語、算数・数学の問題は主に知識力を測るA問題と活用力を計るB問題に分けて出題されていましたが、今年度より一体的に出題される

ことになりました。また、教科の他にも、児童生徒及び学校に対する質問紙調査も行われました。

「2 調査結果について」です。小学校及び中学校の教科に関する調査結果の平均正答率は、近年香取市は全国や千葉県を下回っておりました。しかし、今年度の小学校の国語・算数において、全国や千葉県を上回る結果となりました。しかし、中学校は、国語・数学・英語とも全国や千葉県を下回る結果となっております。

続いて、教科に関する傾向をご説明いたします。小学校国語は、全国平均をやや上回りました。概ね良好といえます。領域別では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」や「読むこと」が全国平均を上回りました。しかし「話すこと・聞くこと」「書くこと」は全国平均をやや下回りました。

緑で示された問題形式別では、すべての形式で全国平均を上回りましたが、条件や字数を示されて、自分の考えなどを文章で書くといった「記述式」の問題は、ほぼ全国平均と同程度でした。

小学校算数では、全国平均をやや上回りました。概ね良好といえます。領域別では、すべての領域において全国平均と同程度もしくはやや上回りました。問題形式別では、すべての形式で全国平均と同程度ですが、「記述式」が課題となっております。

中学校の国語・算数・英語においては、領域別のすべてにおいて全国平均を下回りました。特に、数学の「関数」が課題となっております。また、問題形式別でもすべての形式で下回りました。3教科とも特に、「記述式」が課題となっております。

続いて、(4) 児童生徒質問用紙の調査結果ですが、香取市の課題となる2つの調査結果をご説明いたします。

「①自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いませんか。」という質問に対して、「当てはまる」(青)や「どちらかといえば当てはまる」(赤)といった肯定的な回答をした割合が、小学校・中学校ともに県や全国を下回りました。効果的に資料を活用する力や自らの考えを文章にまとめる力、発表の構成を組み立てる力に課題が見られます。自分の考えをもち、その内容を的確にまとめ伝えることができるようにしていくことが必要です。

「②学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）。」という質問に対して、1時間以上家庭学習に取り組んでいる児童生徒の割合（青と赤と緑）が県と全国を下回っています。さらに、2時間以上家庭学習に取り組んでいる児童生徒の割合（青と赤）を見ると、県や全国を大きく下回っています。学力をさらに伸ばしていけるような学習時間の確保が必要です。

ここまでで、「記述式の問題への対応」「自分の考えをまとめ工夫して発表する」「家庭学習時間」などの課題が出てきました。香取市内ではそのような課題の解決に取り組み、良好な結果が得られている学校があります。その中の4校を好事例として紹介いたします。

事例1として発表やまとめの方法の工夫をしている学校の例を紹介いたします。国語・算数（特に算数）の記述式の正答率が高い小学校での取り組みです。

①発達段階にあわせた話型モデルを示し、児童はその型にあてはめて、自分の考えを発表しています。5、6年生を例にしますと、自分の考えの根拠を明確にして話すことを目標にして、記載してある型にそって発表するようにしています。記載しておりませんが、1、2年生の目標は「自分の考えを詳しく話す」で、例としては、順序がわかるように「はじめに、まず、次に、最後に」等を使うようにしています。また、3、4年生は「自分の考えを整理して話す」を目標に結論を言ってから、理由をつけて話す型として「～になります。なぜなら・・・」といった表現方法を示していきます。

②ICT機器を使って、発表者が自分のノートやワークシートを拡大して提示しながら、記載してある数直線、図や文章などを使用して説明する機会を多くしました。このことで、発表者が自信を持ってスムーズに発表することができるのと同時に、聞き手にもわかりやすい発表となります。

③学習のまとめについては教師が「キーワード」を示し、児童がそれを使って自分で考え自分の言葉でまとめるようにしています。これにより要点を整理して、自分の考えとして学習をまとめることができます。

事例2として自分の考えや問題解決を記述する時間の確保をしている学校の例を紹介いたします。国語の記述式の正答率が高い小学校での取り組みです。この学校では、児童が自分の考えについて記述する時間を確実に設定しています。また、「事例1」で示した学校同様、教師がキーワードを示して、児童自身がまとめを書くようにしています。また、ワークシートやホワイトボードを活用して、自分の意見を記述で表現する活動を積極的に取り入れ、書く経験を積ませることを多く取り入れることで、自分の考えをまとめ書く力の習得を図っています。

事例3として年代別グループ研修及びベテラン層が講師となる研修を行い、教師の指導力の向上を図った例でございます。この学校は全国・県との平均正答率の比較が、昨年度より伸びた小学校です。

①若年層、中堅層、ベテラン層の各1名ずつからなる3人組のグループ編成し「ICT活用」や「板書方法」、「道徳科の授業づくり」等の研修を実施しました。これにより、若年層は柔軟な発想力を発揮し、中堅層がそれを具体化する。そして、ベテラン層がアドバイスや調整をしていくといった役割を通して研修の効果が表れました。また、グループ内で情報交換をする中で、それぞれの世代で、基礎スキルを学ぶ場、ブラッシュアップする場、モチベーションアップの場として大きな効果が見られました。

②夏季休業中、ベテラン層が講師となり、「音読指導」や「歌唱指導」、「水泳指導」等、それぞれの得意分野の研修を企画し、実践しています。研修内容は各自の選択制になっており、企画運営もすべて職員間で行われるため、熱気ある研修の中で教育スキルを着実に身につけています。

事例4として生徒の活動を生かした学習意欲の向上に取り組んだ例でございます。この学校は、国語・数学（特に国語）の記述式の正答率が高い中学校です。

①生徒会に学習委員会を設置しています。その活動として家庭学習時間の調査を行っています。生徒一人一人が、毎日の学習時間を生活ノートに記載し、学習委員会が毎月、学習時間を集計して発表してい

ます。また、家庭学習の内容や計画表の好事例を学習委員会の生徒が該当生徒取材する形で、生徒集会で発表しています。

②全校統一で計算コンクール（職員作成）を実施。コンクール当日までの朝学習時に、上級生の代表が下級生の教室を訪問し、個別にアドバイスをするといった取り組みをしています。

以上のことを踏まえて、香取市として学力向上の手立てを次のようにお示ししました。

「学習指導について」は教員の指導力の向上が不可欠です。よって、まず授業力向上のために事例 1～4 で取り組んでいる好事例について、各種研修会や香取市教育委員会で設置する WEB ページで公開し、全学校での共有化を進めていきます。また、ベテラン層と若手層の力を合わせたペア研修などの OJT を基盤とした研修を行い授業力の向上を図ります。

次に、思考する時間、表現する時間の確保のため冗長化の改善を目指した授業づくりを目指します。教員自身の授業を振り返り、冗長化していないかを重視した授業改善を行います。そのために、教師自身がタイマーを利用し時間を計測するなどして客観的に自分の話している時間等を把握して、時間短縮を図ります。こうして生じた時間を、思考する時間や表現する時間に使っていきます。

それにより確保した時間をより効果的に活用するために思考する場面の工夫として、児童生徒が板書やノートをとおして思考の過程を振り返り、学んだことをまとめる場を設定します。そして、まとめでは「キーワード」を示し、児童生徒が自分で考え、自分の言葉でまとめるようにしていきます。また、ワークシートやホワイトボードを活用して自分の意見を記述する経験を積ませてまいります。また、発表の場面の工夫では話型モデルを使用して、児童生徒が自分の考えをまとめ、相手に分かりやすく発表できるようにする。また、発表の機会を多く設定して、発表の際には ICT 機器を活用することにより、その操作を習得させるなどして、分かりやすい発表ができるようにしてまいります。

また、家庭学習については、家庭での学習習慣の定着化と質・量の充実を図ります。その為家庭学習の習慣の徹底、そして効果的な学習

方法を家庭に知らせる。思考力を充実させるような課題の提供、保護者への啓発を行うための方策として、毎年、児童生徒向けと保護者向けに、小学校低学年・中学年・高学年・中学生別に配付しているリーフレット「家庭学習のすすめ」の活用の充実を図ります。現在、来年度配付予定のリーフレットの大幅改訂に取り組んでいるところです。また、学習支援ソフト「eライブラリ」は、学校の授業だけでなく、インターネットを利用して、家庭でもPCやタブレット、スマートフォンでも学習ができます。問題の難易度も「基本」「標準」「挑戦」と3段階で選択して学習できますので、さらなる活用を進めるなどして、家庭学習の充実を進めてまいりたいと思います。説明は以上です。

議 長

ただいま、「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果」について、説明がありました。皆様方から、ご質問、ご意見等ございましたら、お願いいたします。

教育委員

全国平均を上回れない状況が続いていた中で、小学生については改善が見られるとのことですが、どのくらいの期間で良い方向に改善できたのでしょうか。

学校教育課長

好事例の1、2、3につきましては、昨年度から取り組んでる事例でございます。新学習指導要領が来年度から小学校完全実施ということで、そこを見据えた授業改善というところで、成果が見えてきたと考えます。

教育委員

一年で成果が出たということですか。

学校教育課長

事例1につきましては、以前から少しずつ取り組んでおり、徹底したのが昨年度からと聞いております。

事例2につきましては、2～3年前から取り組み、昨年度から徹底したようです。また、年代別グループ研修は昨年度から教員のアイデアで始めたようです。

議 長

小学校で行っている事例1～3を中学校で行ったら良いのでは。

教育長

グラフで見ますと差が顕著に出る仕組みになってまして、特に英語の記述が平均を大きく下回っているように見えますが、全国の平均を100として、香取市の状況をみますと、全国の正答率が6.8%くらいで、香取市の正答率が5%くらいで、全国の6.8%を100とすると香

取市は73くらいとなります。

正答率の差が2%くらい、しかも記述式の問題は3問だけで、1問出来ると33%となります。グラフを見た時はびっくりしましたが、内容を聞くと、グラフ自体の表現がいかげなものかと思います。

こちらのグラフは県で作成したものでですか。

学校教育課長 はい、そうです。

教育長 差でみると2%程度です。英語で言うと全国の正答率56%で、香取市が54%です。

議長 それでもこのグラフは分野別に分けて比較していて、説明いただいたけれども100もいるわけだから、香取市の結果は良くはないですね。

教育長 良くはないのですが、グラフでの差の表現は極端すぎると思います。

議長 3教科すべてにおいて、記述が平均を下回っているのが現状ですよ。

教育委員 この好事例は市内のものですが、全国的に工夫例、他県の好事例を手に入れるすべはないのですか。文部科学省などで事例を発表してることはないのですか。県同士が競うものではなく、国全体でレベルを上げるべきだと思います。

学校教育課長 全国の好事例は文部科学省から配られておりまして、それらを参考にしておりますが、今回紹介しました市内の好事例は、市内の課題に対応して市内の児童生徒にあった事例ということで紹介させていただきました。

教育委員 全国の好事例を参考にやっていますということを紹介いただいたわけですね。

学校教育課長 全国で紹介いただいたものもありますが、それ以外のものを紹介させていただきました。

教育長 学校に十分伝わっていない反面もあるので、教育委員会では研修会等の機会を利用して、実施し出来るようにかみ砕いて伝えるようにしています。

教育委員 それは大切ですね。しっかり情報が伝わり現場で行われているかどうかを、更に充実して行って欲しいですね。

議 長 その他如何でしょう。

教育委員 学力とかが低いのは、家庭での勉強時間が少ないことに関連すると思いますが、学習時間を確保するために、宿題を多めに出し、勉強時間を与えるというのはどうでしょうか。

学校教育課長 家庭学習の出し方についても、学校で課題となっております。今、小学校の宿題ですと主に、漢字ドリル、計算ドリルを出しています。ドリルですと宿題に出された部分が終わると勉強も終わりとなってしまっています。宿題の出し方について自分の考えをしっかりと文章でまとめる。たとえば 60 字以内にまとめるような宿題を出したら、思考力も記述式に対応するような力がついてくると思いますし、それに応じて学習時間のほうも基礎基本だけでなく、応用編、課題に対する時間も必然的に多くなってくると思います。ですから、課題の出し方とかについても、今後研修等深めてただのドリルでなくて、そういった面の力を付けていけるような課題の出し方をしていきたいと考えております。

教育委員 今まではしていない訳ですか。

学校教育課長 していない訳ではありませんが、十分ではないと考えておりますので、基礎・基本の徹底以外の部分でどのように力を育んでいくか更に周知していきたいと思っております。

教育委員 小学校低学年の頃から、勉強をする習慣をつけさせてしまう。家に帰ったら 1 時間は机に向かうよう習慣にしたら中学生になっても続くのではないか。

学校教育課長 「家庭学習のすすめ」というリーフレットを大幅改訂しようと思っております。児童生徒向けと家庭学習には保護者の協力も必要ですので、保護者向けのリーフレットの両方ありまして、リーフレットには基礎基本の徹底について書いてありますが、それだけでなく自分の考えをまとめましょう、社会に目を向けましょう等を加えた物を配付して更なる習慣化、児童生徒の意識付け、また、保護者の方にも協力頂いて出来るようにしていきたいと思っております。

教育長 児童生徒によって色々差があり、同じようであっても、ある子どもにとっては負担が多くて、また、ある子にとっては負担がなく簡単に終わってしまうことがあります。そのような中で、保護者から多すぎるのではないかとの意見をいただくこともありますので、家庭と学校が家庭学習の在り方について、お互いよく理解し合うことが大切だと思います。現在リーフレットの作成、改訂を依頼している所です。中学生になると勉強時間が少なくなると、何をしているかという、今はゲーム、スマホ等、勉強よりゲーム等へ行ってしまいう傾向があります。特にスマホの扱い方をどうしていくか、家庭の協力が不可欠ですので、そういった事はどんどん家庭に啓発していくなど、校から、教育委員会から、ひとつ大きく取り組んで行かなければと考えております。

議長 その他如何でしょう。

教育委員 家庭によって、勉強に対する意識が薄かったり、塾に行かせたりする家庭もあり、学校の勉強だけで済ませてしまう家庭もあり、出来る出来ないの差が開いてしまうのではないか。格差とかも埋めていただけるような指導もしていただけたら良いのではないか。

学校教育課長 授業が学力向上のための一番の中心となっていくものと考えますので、まずは授業の充実をさせていただいて、授業は皆さんが受けるものですから、それによっても学力向上を目指したいと考えております。

また、家庭学習についても課題の出し方や、家庭との連携において、塾に行かなくとも家庭でしっかり勉強出来るようにしていきたいと考えております。

教育長 ある小学校の取り組みですと、少し遅れてしまった児童に対して放課後に教えますから、どうですかと家庭に話をして、働き方改革もありますので、長い時間充てることは出来ませんが、そのような取り組みで効果が上がっている学校もあるようです。

教育委員 確かに、子どもによって差はあると思います。遅れてしまった子どもへのサポートも大事ですし、逆に伸びる子、得意分野を伸ばすような教育も、併せて出来るといいと思います。

教育委員 事例3、年代別グループ研修及びベテラン層が講師となる研修は、ひとつの学校の中で行うのですか。教え方の上手な方、上手な先生の授業を参考にして、全体の先生方の指導力を上げていく方向性も必要

ですよね。

学校教育課長 市内でも授業の上手な方もいらっしゃいますので、授業の達人ということで県から指定を受けている方もいますので、そういった方の授業を見る機会を設けたり、どこがキーポイントなのかがわかるものを作ってもらったりして、先生方に紹介していくことも考えています。

教育長 自校でこのような研修を行うことも、ある程度の学校規模でないと出来ませんので、香取市は単学級で教諭だけ見ますと、7名くらいの学校が増えてまいりましたので、そうしますと研修自体を行うことが難しいところがありますので、子どもの教育だけでなく、教員もスキルアップという面からもある程度の学校規模があると良いのではないかと思います。

議長 ただ今、皆さんから頂いたご意見等を参考に、児童生徒の学力の向上を図っていく策を講じていただきたいと思います。
貴重なご意見ありがとうございました。
それでは、事務局へ進行をお返しします。

8 その他
教育総務課長 ご意見をいただきましてありがとうございました。
つづきましてその他でございます。委員の皆様から何かありますでしょうか。

9 閉会
教育総務課長 ないようですので、これをもちまして、令和元年度第2回総合教育会議を閉会いたしたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。